

沖縄観光インフラカード の発行

～観光を楽しみ、集めてわかる～

内閣府沖縄総合事務局 次長 尾澤卓思

はじめに

沖縄県では、観光を県経済のリード

資源

まとめたものです。

なぜカードなのか

観光とインフラの関係について、提

ibd

デイング産業と位置付け、現在第5次
の観光振興基本計画を定め、観光振興
に力を入れています。平成33年度に入
域観光客数1000万人（うち国外客

② 觀光地等の地域支援「沖縄らしい魅力のある地域づくり」

③ 交通網の整備 「交通拠点とネットトワークの構築」

案を公表したHPや雑誌、機関誌等では、一般の方や観光客にとって内容が難しい上、ボリュームが多く、理解しにくいものでした。また、提案したよ

200万人）の達成に向け、受け入れ態勢の構築等のロードマップや観光危機管理基本計画を策定する予定です。

④ 情報発信の拡充
—交流拠点からの
発信

⑤ 環境保全・再生「保全・再生技術
の蓄積と活用」

うにインフラから情報発信を行い、観光振興に貢献する必要があります。

このため、広報を工夫する必要があり、これまで講演会やパネル展を実施

ます。

こうした動きを踏まえ、沖縄観光振興に貢献するインフラ整備を明らかにし、「沖縄における観光客1000万⼈時代のインフラ整備」として6つの分野のシナリオを作成し、HP(<http://www dc.ogb.go.jp/kaiken/012480>)や雑誌、機関誌等で公表しました。

今後、この提案を広く理解してもらい、観光振興に寄与するとともに、インフラ施設への興味を持つてもらえるようになることが必要と考え、一般向けの広報を実施することとしました。

しかし、これらは限定的なため、さらに広く伝える方法を考える必要があります。そこで、広報の基本方針として、写真を利用するなどわかりやすい表現、簡潔な内容、楽しみの付加、安価、作成の容易性、幅広い世代を対象とするなど重視し、特に注目度と話題性において期待でき、インフラ

した。その際に、従来の道路、港湾、空港等の事業毎の縦割りの展開を観光の観点から横串を刺した形で整理し、観光振興の目的・目標に対してもインフラの総合力の重要性をわかりやすく示す工夫を行いました。

考慮し、安価で作成しやすい性格を有するカードを用いました。観光とインフラの関係について、カードの収集を楽しみながら理解できる「沖縄観光インフラカード」を発行しました。

施設のダムで実績のあるカードを用いたこととしました。

6つの分野のシナリオは、観光振興に貢献するインフラ整備の内容及び形

「沖縄観光インフラカード」の紹介を行います。

ポケットモンスターなど国民的な流行となつたものもあります。

の方に広く容易に理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成し、配付することにしました。

チ、離島架橋、ダムツーリズムなど観光資源を含む幅広い地域づくりが、観光に貢献しています。

沖縄観光インフラカードの概要

さらに、広報のみならず、カードは教材として用いられることもあります。教

Rコードによるインターネット上の展開も可能になり、動画の配信など幅広い活用が期待されます。さらに、カードホルダーを組み合わせることにより、収集の楽しみも増えます。こうしてカードの特徴を活かすこととしまして。

どを写真と簡潔な表記で行うというインフラの名刺です。収集する楽しみがあり、記念品にもなるため、観光客の満足度の向上につながり、また、カード発行施設の連携等により観光PR効果や誘客効果も見込めます。作成価格はパンフレットより安く、台紙は規格

という漢字が造形的モチーフになつています。「沖縄県の県章」を象った【目】にあたる部分は、新たな「観光」の可能性を展望するものであると同時に、それを支える【足】の部分が、新たな観光スポットとして注目される「イン

「インフラ」及び観光を支える「インフラ」を象徴しています。また、こうした「観光地」を巡り、沖縄の魅力をたくさん「発見」しながら旅を満喫するツーリスト達の姿を表現したものでもあります。スタンプ風に仕立てたこのマークす。



図1 カードのデザインと仕様

【配付】

配付方法は、原則として各施設利用者で希望される方へ配付窓口において一枚の手渡しとする。ただし、式典やイベント等において配付する場合はこれに依らないこととしている。配付場所は、(図3)のマークを掲示している窓口で行う。

【発行対象】

発行対象は、基本として「沖縄における観光客数1000万人時代のインフラ整備」で提案したシナリオに基づくインフラ施設とし、適宜発行して増やしていく。カードは登録制とし、登録順にナンバーを付す。



図3 配布場所目印
マーク



図2 ハンボルコ、M

沖縄観光インフラカード

図4 平成26年度発行のカード

沖縄北部ダムツーリズム

福地ダム



安波ダム



漢那ダム



道の駅

許田



おおぎみ



ゆいゆい国頭



かでな



喜名畠所



豊崎



いとまん



ぎのざ



国営沖縄記念公園

沖縄美ら海水族館



開通記念

首里城



豊見城東道路

図5 安波ダム
「シゲランファーの滝」安波ダム
「シゲランファーの滝」

「安波ダム」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、ダム湖面からしか見られない幻とされる「シゲランファーの滝」が動画で見ることができます。

図6 沖縄美ら海水族館

沖縄美ら海水族館



「沖縄美ら海水族館」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、黒潮水槽の中でゆうゆうと泳ぐジンベエザメと一緒にいるような動画と沖縄の方言をお楽しみ頂けます。

図7 首里城

首里城



「首里城」カードでは、カード裏面に記載されているQRコードより、首里城公園「新春の宴」の厳かな儀式の様子を動画で見ることができます。

を今回の「沖縄観光インフラカード」

に施することで、それらを集める喜びや
楽しさを演出するとともに、沖縄を訪
れた人々の素敵な思い出の証となるよ
うデザインしています。

(2)セピア調のアンティーク感を持つ
た写真

そのままの写真では、見たまま頭の中の印象どおりであり、手元の写真でも残ります。今回は、旅の思い出として、時間の観念を入れ、思い出風にセピア調にしています。旅から帰つてから見るというコンセプトにしました。また、セピア調により、格調高く仕上がっています。

(3)背景の色

施設のシリーズがわかるようにシリーズ毎に色を決めました。

デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生によるチームに依頼したものです。

【平成26年度発行のカード】(図4)

・沖縄北部ダムツーリズム(平成27年
2月28日)

福地ダム、安波ダム、漢那ダム

・道の駅(平成27年3月15日)

許田、おおぎみ、ゆいゆい国頭、
かでな、喜名番所、豊崎、いとまん、

・国営沖縄記念公園(平成27年3月26日)

沖縄美ら海水族館、首里城
・開通記念(平成27年3月31日)

豊見城東道路

沖縄北部ダムツーリズムの安波ダム及び国営沖縄記念公園の沖縄美ら海水族館、首里城のカードでは、QRコードにより動画を見る事ができます。(図5、6、7)

沖縄観光カード(仮称)の提案

カードの発行が観光振興に貢献することを考えると、インフラ施設のみならず観光施設や観光関連産業などにおいても同様の「沖縄観光カード(仮称)」の発行により観光振興に同じような効果が見込まれます。

基本的な規格やデザインを合わせた姉妹カードの発行により、観光客の満足度の向上や観光PR効果、誘客効果などの面において相乗効果も見込まれます。

今後、観光とインフラの関係の理解のみならず、観光振興に大いに貢献できるように沖縄観光インフラカード及び沖縄観光カード(仮称)の発行対象を拡大するよう努めています。

観光とインフラの融合

6つの分野のシナリオからわかるよ

うに観光とインフラは一体として考
えた方が理解しやすく、今後の展開を考
えるのに合理的な部分がかなりあります。

このため、「沖縄における観光客

数1000万人時代のインフラ整備」

では、観光とインフラは別々でインフ
ラが観光を支援するという観点から、

観光とインフラは融合しているという

新たな観点へと見方を変えてインフラ

整備を行うことを提案しました。

これをもつともわかりやすく実感で
きるのが、沖縄観光カード(仮称)と

沖縄観光インフラカードの姉妹カード

の発行です。旅の中で両方のカードを

集めていくことにより、如何に密接、
一体化しているかを知つてもらえ、旅

の思い出の中に観光とインフラがきれ
いに収まります。

おわりに

今後、観光とインフラの理解のみならず、観光振興に大いに貢献で

きるように沖縄観光インフラカード及
び沖縄観光カード(仮称)の発行対象

を拡大するよう努めています。

また、工事中のインフラ施設において

も、土木の魅力を広く知つてもらうた
め、工事現場のカードを発行すること
を検討中です。現場見学やパネル展な
ど広く土木の魅力をPRする機会に活
用していきます。

カードは、動画配信やゲーム性を持
ったせた運用など様々な組み合わせを行
うことができ、アイデア次第でかなり

の広がりを持った活用が考えられる。

大学生など若い世代への参加を広め、
ワークショッピングや実証実験など柔軟な

アプローチでユニークなアイデアの発
掘も行います。民間との連携を強化し、
官民連携によるさらに面白い取り組み

を提案、実現していきたいと考えてい
ます。

最後に、忙しい中、カードの企画の段階から相談に応じていただき、デザ
イン、シンボルマークの作成まで応じ
ていただいた東京学芸大学環境教育研
究センター吉富友泰准教授、東京学芸

大学教育学部正木賢一准教授及び学生
の皆様には感謝を申し上げます。

参考文献

・尾澤卓思・沖縄観光インフラカード
の発行、しまだてい(No.72) pp48~